

万博公園探鳥会

2024年3月9日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
玉置こるり・有賀憲介・平軍二(090-6901-1425)

I 千里の鳥・万博の鳥「トラツグミ」

↓ 橋本昌宗



スローガンの「アレ」で盛り上がり、ついに38年ぶりに日本に輝いた阪神タイガース、今回は先月の万博公園探鳥会で観察した全身がトラ模様の鳥、「トラツグミ」を紹介する。

トラツグミは嘴～尾の長さの体長が30cmとヒヨドリ並み、通常のツグミは24cmであり、大阪近郊で見られるツグミの中では最も大きい鳥。写真のように頭部から腰、そして翼など、黄褐色で黒い鱗状の斑「トラ模様」が密にあり、一目でトラツグミとわかる。

シベリア東南部～中国東北部、朝鮮半島・日本などで繁殖し、冬季は日本南部～フィリピン、インドシナ半島・インド東部などに渡り越冬する。日本では留鳥または漂鳥として周年生息し、本州・四国・九州の低山から亜高山帯で繁殖しており、北海道には、夏鳥として渡来する。

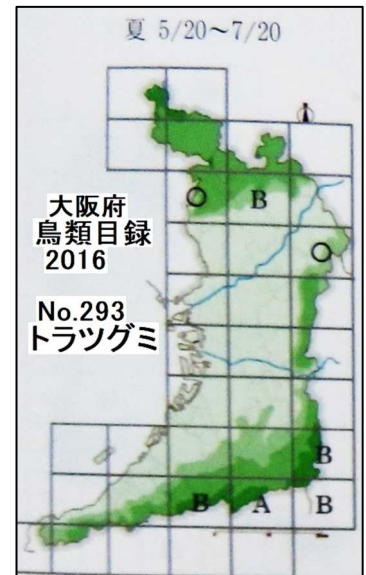
大阪府内では、北部の北摂山地や南部の金剛・和泉山地などでトラツグミの繁殖記録はあるが、平野部では冬鳥として良く観察できる。

(大阪府鳥類目録2016(日本野鳥の会大阪支部) →

ツグミ・シロハラ・トラツグミの3種は、越冬時に地上で虫を探す種、3種は明るさですみ分けており、「ツグミは開けた場所、シロハラは林縁のやや日陰、トラツグミは暗い林床」で観察できる。

トラツグミは雑木林などの地面で、積もる落ち葉をかき分けながら、土中のミミズを探して食べていることが多い。

トラツグミの異名はヌエ(鶺鴒)、夜に森の中から「ヒョー・ヒョー」と人の泣くような気味の悪い声で鳴くのを聞くと、「ヌエが鳴くとだれか死ぬ」など、人の死と結びつけて恐れられた。平家物語に出てくるヌエ退治、平安時代に近衛天皇が病床にあった時、毎夜御所の紫宸殿の上から不気味な鳴き声がした。警護の源三位頼政がその声をめがけて矢を放ち、怪物を仕留めることができたが、『頭はサル、胴はタヌキ、尾はヘビ、手足はトラ、声はヌエ』に似ていたとのことである。(文献:国松俊英著「鳥のことわざうそほん」と1990年山と溪谷社)



このように声を聞くと気味の悪い鳥のヌエ(トラツグミ)も、姿を見ていただくと阪神タイガースの鳥として楽しんでもらえるのではないのでしょうか。

II 先月 2024 年 1 月万博探鳥会結果

集合時に太陽の塔の天辺の避雷針にチョウゲンボウを見て、幸先良くスタートした。園内に入って小鳥たちは少なかったが、アキニレに餌を求めるカワラヒワが多く、その中に少数のアトリもいた。水すましの池では今シーズンで4年連続となるタシギが、先月に続いて観察できた。狭い草叢のどこが気に入っているのか、不思議である。日本庭園では万里庵入口のアラカシ林の林床には今冬初のトラツグミ(前述)、高台の休憩所ではアオバト5羽が上空を飛んだ。梅の花が咲き始めた穏やかな快晴の探鳥日和、鳥が少なくとぎれとぎれではあったが、終わってみれば39種とまずまずの観察種数で終わることができた。



(写真:橋本昌宗)左 チョウゲンボウ 中上 アトリ 中下 タシギ 右上 エナガ 右下 シジウカラ

III 次月 万博公園探鳥会 4/13(土)

集合 9:30 自然文化園中央口

終了 15:00 頃 日本庭園内の予定

内容 桜の花が終わったものの爛漫の春、シジウカラ・カワラヒワなど留鳥は春の歌を歌ってウオッチャーを待っています。冬鳥の渡去が始まっている一方で、ツバメが渡来し、ニューナイスズメが通過しています。

昨年は4月にアリスイが確認されました。

アリスイ(20230408)橋本昌宗 →



参加予定の方 今月同様大阪支部 HP ホームズ様式からお申し込みください。

ホームズでの申し込みが難しい方、平宛メール g.0501.hi@gmail.com 連絡で OK

